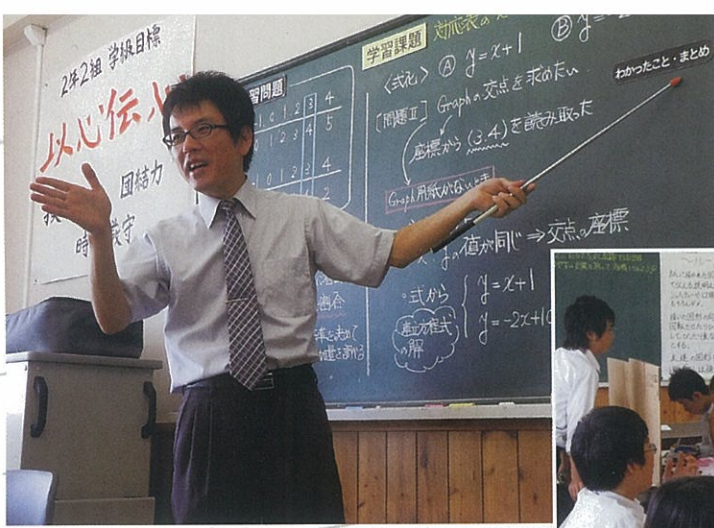


修了生からの
お便り



日本数学教育学会 研究奨励賞を受賞して

この学校に赴任して半年が経ち、ようやく現場の感覚を取り戻したような気がしますが、4月当初は生徒から「先生の歳になって大学？」という不思議そうな眼差しで見られている私がいまいました。ところが最近、大学からの教授実験の依頼に積極的に協力し、授業を幾つか提供してきた経緯から、「大学に行って勉強してみたい」、「大学で資格を取得して将来に役立てたい」という会話が身近で聞かれるようになりました。

私が長野県の大学院派遣教員として希望した理由は2つあります。1つは、教師歴10年という節目を迎え、自分の今を見つめたとき、今までの経験に基づく授業に偏りだしたスタイルに違和感を持ち始めていたことです。もう1つは、学習指導要領改訂に伴い、暗中模索するのではなく、趣旨を確実に理解したうえで、専門性や教材開発力、単元構成力を改めて身に付けていく必要があると思ったことからです。先行実施が始まろうとしている今しかチャンスはないと強く考えていました。

上教大大学院では自然系コース(数学)に所属し、中学校数学に新たに新設される「資料の活用」に焦点を当て2年間研究を推進してきました。その成果として、この度、日本数学教育学会研究奨励賞を受賞することができました。この賞に至るまでの過程は決して平坦ではなく、統計的モデリングの理論を構築する段階で苦悩したり、子どもたちの

内的思考や変容を観察し、捉えていく質的方法の難しさに直面したりして、自分の見方や考え方の未熟さを痛感しました。このような中で、数学コースの専門性豊かな先生方の具体的かつ的確なアドバイスを周囲の院生仲間との協力もあり、論文としてまとめあげることができたことに感謝しています。

現在、勤務する中学校では2学年の学級担任と学年副主任を兼ね、日々生徒たちと共に学校生活を送っています。残念ながら学校現場は、なかなか授業に専念できる余裕がないほど多忙なところで、今の私も仕事が後手に回っている感はありません。その理由は、一人ひとりの生徒の把握や支援(生活記録・休み時間・個人面談)、新しい出来事に対する対応、給食・清掃指導、部活動指導、地域や家庭との連携、学校行事など、どれも教育上大切な仕事で日常的に繰り返し行われているからです。しかし、上教大で学んだ今の私は、限られた時間の中で、「子どもの思いや考え方を多面的・多角的に見通す資質と教材研究を行い、授業実践することができるようになってきました。これも2年間の研究で培った賜物であると確信しています。是非、大学生・院生であるみなさんも上教大という素晴らしい環境の下で粘り強く探究し、自分の学びや教育感を拓いていってほしいと願っています。



下平 将揮
(しもだいら まさき)

長野県出身。長野県大学院派遣教員として平成21年4月から上越教育大学大学院自然系コース(数学)に在籍し、平成23年3月に修了。現在は長野県松本市立鎌田中学校に赴任し、2学年学級担任と学年副主任を担当している。また、校内研究部として学力向上、授業改善を推進している。第67回関東都県算数・数学教育研究松本大会実行委員、松本市教育会教科等研究員(算数・数学)



2年5組の生徒たちと共に